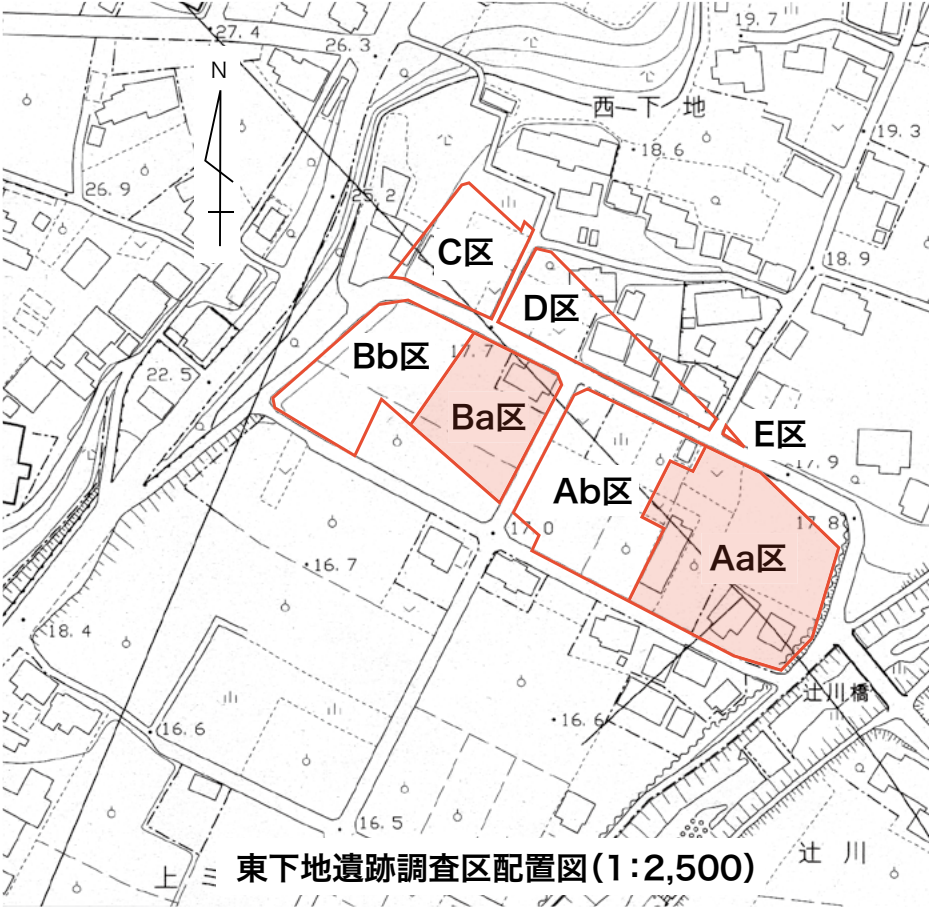




Ba区水田跡検出状況(北より)



弥生時代前期土器片出土状況

東下地遺跡 Ba 区の調査について

Ba 区は Aa 区の 150m ほど北西に設定しました。この調査区では、現在までのところ、古代・中世・近世の活動の様子は分かりません。しかし、弥生時代前期の遺物の散布と、それ以降の時代の水田跡が見つかりました。**弥生時代前期の遺物**は土器片ばかりで、当時のヒトが活動した痕跡とは考えられますが、より詳細な活動内容は不明です。また、**水田跡**は、当時のアゼの形が写り込んだ痕跡のみですが、調査区全体で、地形に沿った状態で作られた様子が見つっています。

2000年	1900年	1800年	1700年	1600年	1500年	1400年	1300年	1200年	1100年	1000年	900年	800年	700年	600年	300年	A.D. 0年	250年前	300年前	400年前	500年前	600年前	1300年前	2500年前	3000年前	3500年前	年代			
近代・現代	江戸時代	戦国期	室町時代	鎌倉時代	平安時代	奈良時代	飛鳥時代	古墳時代	弥生時代	縄文時代	後期旧石器時代	時代														時代			
安土桃山時代																													
1945年	1867年	1600年	1576年	1590年	1600年	1335年	1334年	1192年	794年	743年	645年	593年	400年	300年	250年前	300年前	400年前	500年前	600年前	1300年前	2500年前	3000年前	3500年前			主なできごと			
太平洋戦争終結	大政奉還	徳川家康江戸幕府を開く	織田信長安土城築城	関ヶ原の合戦	南北朝の動乱	足利尊氏室町幕府を開く	建武の新政	源頼朝鎌倉幕府を開く	藤原氏の摂関政治	平安京遷都	大化の改新	聖徳太子摂政となる	東大寺大仏建立の詔・国分寺	大和政権の出現・各地に古墳の造営	女王卑弥呼邪馬台国を統治する	稲作の開始	金属器の使用・銅鐸の使用	環濠集落の出現	土器棺墓群が形成される	抜歯風習の盛行	寒冷化し、海退した低地にも生活が始める	貝塚の形成	気候の温暖化による海進	土器の発明・弓矢の使用	鹿兒島県始良カルデラ（ヤリ）の降灰	台形様石器・ナイフ形石器・ 局部磨製石斧の出現			
		古田城跡（豊橋市）			吉田城跡（豊橋市）	石巻山城址（豊橋市）	高井城址（豊橋市）	西側遺跡（豊橋市）	普門寺跡（豊橋市）	苗畑5号窯跡（豊橋市）	小針遺跡（岡崎市）	西浦遺跡（豊橋市）	白鳥遺跡（豊川市）	三河国分寺跡（豊橋市）	東中田A古窯（豊橋市）	馬越長火塚古墳（豊橋市）	瓜郷遺跡（豊橋市）	欠山遺跡（豊川市）	麻生田大橋遺跡（豊川市）	大西貝塚（豊橋市）	吉胡貝塚（田原市）	車塚遺跡（岡崎市）	眼鏡下池北遺跡（豊橋市）	多り畑遺跡（豊橋市）	宮西遺跡（田原市）	駒場遺跡（豊川市）	西牧野遺跡（岡崎市）	上品野遺跡（瀬戸市）	愛知県内の遺跡

関連歴史年表

東下地遺跡 地元説明会資料

日時：2011（平成23）年9月3日（土） 11時



遺跡から石巻山を望む



東下地遺跡(赤色)と周辺の遺跡(1:25,000)
明治二十四年陸地測量部作成二万分の一地形図「石巻山」より

調査主体



(公益) 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
<http://www.maibun.com>

調査支援



株式会社 二友組

調査の概要

東下地遺跡の発掘調査は五月から本格的に始まりました。今回の説明会は本年度調査を予定している前半部分について公開いたします。

東下地遺跡の位置する場所は、東側にある神田川と西側にある台地に挟まれた低地部分にあたります。近くの住む方のお話によれば、神田川の整備がされるまで、川がよく氾濫していたようです。現在進めているA a区に堆積している地層からもよくわかります。

今回は現在調査中のA a区の調査成果を中心に紹介します。東側に一段低い場所があります。ここがかつて神田川の川辺で、川の流れによって浸食をうけたと考えられます。この一段低い所と高くなった端にそれぞれ溝が掘られています。出土した遺物から室町から戦国時代の溝だとわかりました。農業用の水路、あるいは居住地の周りを囲う屋敷溝、いずれかと考えられます。

北東側に幅広い大きな落ち込み454SXがあります。出土した遺物から平安時代終りから鎌倉時代にかけて埋まった自然流路と考えられます。この流路は鎌倉時代に水流がなくなり、その後、東側の神田川寄りに流路が移動していったと考えられます。

そのほか、大小様々な穴が多く見つかっています。これらほとんどの穴は茶碗のかけらなどが少し入っている程度で、何のために掘った穴かわかりません。それでも写真を載せたいくつかの場所からまとまって遺物が見つかっています。平安時代の長頸瓶が横になっていた穴362SP、人骨といっしょに出土した数珠玉の水晶は鎌倉時代のお墓303STの副葬品でしょうか。さきに紹介した一段低い場所の室町時代の溝463SDでは土製の鍋がありました。鎌倉時代の素焼きの皿がまとまって見つかった穴511SKは現地でご覧いただけます。陶器ではなく素焼きの土師器皿は特別な行事に使ったと考えられています。

今回見つかった遺物は、弥生時代前期（B a区）がもっとも古く、古墳時代、奈良・平安時代の陶器、そして自然流路454SXから多く出土している鎌倉時代の碗、皿などの陶器、素焼きの土師器小皿、なかには調度品として使用されていた青磁もあります。鎌倉時代のはじめ頃、素焼きの土師器小皿がまとまって出土することはあまりなく、どのように使ったのか注目されます。



灰釉陶器長頸瓶



完形品の土師器皿



土師器銅集中箇所

